

■欧州：欧州議会、2030年のエネルギー政策に強制的な目標設定を要求

欧州議会は2014年2月5日の本会議における票決で、EUのエネルギー気候変動政策に関する2030年の目標値について、温室効果ガス排出削減を1990年比40%、再生可能エネルギー導入を最終エネルギー消費の少なくとも30%、エネルギー効率化目標を40%とする提案を採択した（賛成341、反対263、棄権26）。また、これらの目標には法的拘束力を持たせ、加盟国ごとの目標を定めることで、目標達成を図るべきとする意見も出されている。欧州委員会が1月に発表した政策提案では、2030年の再生可能エネルギー導入目標を27%（加盟国ごとの目標は定めない）としていたが、今回の欧州議会の決定はこれを大きく上回るものとなった。今回の欧州議会の採決は直接、法的拘束力を持つものではないが、EUが2030年目標を最終的に決定するためには、欧州議会と欧州委員会、加盟各国の合意が必要となる。